

森を守る

女性連合の森グループ

森を創ろう

鳥取市桂見にある「とっとり出会い森」。その一画の高低い山に全国でも珍しい、女性が創った「森」がある。この森は、鳥取市連合婦人会（本多享子会長、以下連合婦人会）を中心とした市内の女性グループのメンバーが、自分たちで森を守ろうと植樹したもので、「女性の森」と名付けられている。

きっかけは、平成六年に起こった猛暑による全国的な異常渇水。「鳥取は千代川のおかげで断水や給水の制限が無かったんです。この時森林は『自然のダム』だと気づきました」と女性の森グループ代表（前鳥取市連合婦人会会長）の井関さんが当時を振り返る。



『女性の森』のメンバー

翌年、連合婦人会の役員が中心となって、河原町の三滝溪や岡山県の栗倉などに行き、林業の現状を学んだ。参加者全員が、後継者不足で荒廃してゆく森林を見て、危機感を持った。井関さんは言う「森林の恩恵を最も受けているのは、下流域の鳥取市民です。わたしたちには何ができるのか、真剣に考えなければならぬと思います」。

メンバーは、「水源にある森林を次の世代に残すために、私たちは何ができるのだろうか」をテーマに話し合った。話しているうちに、初め「夢のような話」だと思っていた「森創り」が現実味を帯びた。

夢が現実

当時、連合婦人会は、「緑

の募金活動」に取り組んでおり、各地区の公園に樹木を植えていた。その活動を発展させ、新たに「緑の募金女性の森基金」を設けた。そして、女性フェスタ（現在の「女と男とのハーモニーフェスタ」）に参加している女性団体・グループなどに幅広く呼びかけ、約三十組織が参加する「女性の森グループ」が結成された。

「女性フェスタで、パネル展示やチラシ配りをして、森づくりを一緒にしてくれるように呼びかけました。私たちの想いに、ほかの女性団体のみなさんが共感してくれて……『一緒に活動しましょう』と言ってくださった時には、とてもうれしくて」と井関さんと連合婦人会長の本多さんが当時を思い、顔をほころばした。そして、平成九年三月、ついに女性約三百五十名の手でツバキやサクラなど約七百本の植樹が行われ、「女性の森」が誕生した。

森づくりの輪が

「夢が実現できたのは、多

くの仲間との出会いがあったから。知識が無かった私たちに協力してくださった専門家の人たち、そして行政の支援が大きな力となりました」と二人は笑みをこぼす。

今、女性の森グループの活動は、森林教室などの開催や、智頭町や若桜町の林業に従事する人たちとの交流、そして森づくりを通じた智頭町の山郷小学校や県内外の女性団体との交流へと広がっている。「森づくりの輪がもつともっと全国に広がるよう活動を続けたい」。女性の森グループの活動は続く。



智頭町では、枝打ちを体験しました